

特別活動(小学校)

特別活動の内容相互の関連はどうなっているのか。

特別活動の内容相互の関連については、学習指導要領第6章特別活動第3指導計画の作成と内容の取り扱いの2の(1)の中で「〔学級活動〕、〔児童会活動〕及び〔クラブ活動〕の指導については、指導内容の特質に応じて、教師の適切な指導の下に、児童の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるようにするとともに、内容相互の関連を図るよう工夫すること。」と示している。

学級活動、児童会活動、クラブ活動は、児童による自発的、自治的な活動を効果的に展開する実践活動である。したがって、これらの活動における一貫した指導によって身に付けた態度が相互に生かされ、学級や学校の生活づくりに参画する態度や自治的能力がより一層身に付くことになる。

特別活動の内容相互の関連

特別活動の内容相互の関連については、上記の他にも下記のようなものも考えられる。

- 特別活動における4つの内容は、それぞれが固有の価値をもち、集団の単位、活動の形態や方法、時間の設定などにおいて異なる面が多い。しかし、これらは、最終的に特別活動の目標を目指して行われ、相互に関連し合っていることを理解し、児童の自主的、実践的な態度を育成する活動を効果的に展開できるようにすることが大切である。
- 学級活動においては、「(1)学級や学校の生活づくり」を大切にしており、児童会活動、クラブ活動、学校行事の充実に関わることも生活づくりの問題の一つとして取りあげることが大切である。そして、このことを通して学級や学校の一員としての自覚を深め、社会性を培い、個性を伸長するとともに、望ましい人間関係やよりよい学級集団を育成するのであり、学級活動は特別活動の基盤となる教育活動である。
- 学級活動の指導において、児童の自主的な実践活動の積み重ねにより身に付いた資質や能力が児童会活動、クラブ活動、学校行事においても発揮される。一方、児童会活動やクラブ活動、学校行事ではぐくまれた自主的、実践的な態度や自分への自信が学級活動で発揮されるなどの関連もある。
- 児童会活動やクラブ活動及び学校行事において、高学年については下学年への思いやりや高学年としてのリーダーシップを育てたり、下学年については上学年へのあこがれをはぐくんだりするなど、異年齢集団による活動の効果的な展開が期待できる。また、学級活動の「学校における多様な集団の生活の向上」を目指した話し合い活動との関連が図られることにより、一層充実した活動が展開できる。

これらの4つの内容相互の密接な関連を全教職員が理解し、6年間を見通した学校としての特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画を作成し、児童の自主的、実践的な活動を効果的に指導することによって、特別活動の全体が充実し、特別活動の目標を達成していくことができるのである。